

### 相双地区

相双地区は、福島第一原発を  
含む震災の影響も区域分けによ  
って大きく異なります。警報地  
域にされ避難移転を強いられ  
た企業の6割も郡山市や福島  
市、いわき市、県外などに拠点  
を構え事業の一部を再開。緊急  
時避難準備区域指定された南相  
馬市に残り事業を継続している  
会員さんは、大規模な人口流出や  
取引先の消失で、苦戦している  
状態です。そのような中でも新  
事業を立ち上げ、業態を変化さ  
せ、営業エリアを広げるなど奮  
闘しています。相双地区は総合  
方針に「企業復興と地域再生」を  
掲げ、これまでの諸活動を中止  
復興委員会を立ち上げ、仕事づ  
くり、企業復興・地域再生に特  
化し活動を行っています。  
震災対策としては、まず会員  
の安否・所在確認、次に専門家

から雇用や賠償問題を学びまし  
た。他団体と連携し、南相馬市  
及び、国・東京電力へ賠償問題  
についての要望活動を実施。そ  
の後は、会員相互の情報交換の  
場づくりや今後の被害者手立  
づくりを行っています。地域の  
将来像が見えなければ経営計画  
も立てられません。南相馬市に  
対しては同友会独自の復興ビジ  
ョンを策定し、南相馬副市長と  
の懇談会を開催。来月の例会で  
は相双復興局長との懇談も予定  
しています。



▲会合には毎回取材が入る状況。

### 相双地区復興委員長に聞く



崎三恵 取締役  
代表取締役  
五十嵐孝夫さん

半年が経過しましたが、南相  
馬は復旧に向けての動きも鈍く  
将来を測る復興計画を示せる  
状況です。企業閉鎖もあり有

力な働く場を失い、避難してい  
る方も精神的にまだ働ける状態  
になっておらず、子育て世代が  
地域に戻っていません。除染は  
処分方針が決まらず、警戒区域  
内は瓦礫も手付かずです。  
行政が方向性を示せない中で  
同友会として企業活動をどう支  
えるか悩む事続きですが、復興  
委員会は刻々と変わる状況に対  
応して勉強会など行っています。  
震災直後の予想と違った点は、

業種にもよりますが、仕事が  
あってもやりきれない企業が  
増えた事です。今後もしも  
被災者のバックアップをし、  
地域再生は行政に提言してい  
きます。区域分けに応じて課  
題が異なり、まとめる事が難  
しいですが、被災の速いに応  
じ地域ごとのサポートをして  
行きたいと考えています。

# 「福島の再生なくして 日本の再生なし」 震災からの復興に向けて 前編 (各地区活動レポート)

世界が注目している福島の再生は地元の中小企業一社  
一社のチカラにかかっています。  
福島の同友会には、そのために出来ること、やらなけれ  
ばならないことがあります。  
県内10地区それぞれに震災の影響が異なる中、それぞれ  
が3つの目的に沿って、企業経営の糧となる活動を創意工  
夫して展開しています。各地区活動の様子をレポートして  
いきます。

### 福島地区

2011年度は震災に負け  
ない企業づくり・行事の改善・  
仲間との復興協力の方針に掲  
げて活動しています。  
3月・4月には地区会員に専  
門家相談員として登録をいた  
さ、情報を発信し、すぐに協力  
できる体制を整えました。  
例会では、津波や原発事故に  
よる生活圏の混乱を経験した相  
双地区会員2名の経営体験報告  
を行いました。危機管理や地元  
経営者としての責任、仲間の大  
切さ、そして今後高者が取り組  
むべき課題など、必要なこと  
を学びました。

また、「支えあおうくしま」  
の合言葉のもと、地域復興を現  
野に入れたイベントを2回開催  
しました。夏は「食の安全と健  
康を考える」をテーマに、公開  
講演会を開催しました。正しく  
放射能について理解し、安心で  
きる暮らしを考える機会としま  
した。秋は「祭りと音楽祭」を



▲9月例会

### 白河地区

白河市で震度6強など白河地  
区にも大きな揺れが襲いまし  
た。会員企業にも社屋や自宅の  
全壊・一部半壊などの被害が出  
ました。とはいえ、地震や津波、  
原発事故による影響を大きく受  
けた地域に比べれば、白河地区  
の被害は比較的軽い状況です。  
震災後は、事務局や三役を中  
心に安否確認を行なうと共に、  
3月22日付理事長メッセージ  
「苦境に負けず、今こそ中小企  
業家魂を発揮し、企業存続にむ  
け全力を尽くしましょう」に沿  
って、地区会員の皆さんへの励

### 喜多方地区

喜多方地区では3月11日の東  
日本大震災の発生に伴い一時的  
に同友会活動も休止に近い状態  
に追い込まれました。  
歴史の交差点の災害となった  
今次震災の全体を俯瞰すれば、  
直接的な被害は極めて軽微であ  
った喜多方ではありましたが、  
それでも避難所あり続いた燃  
料不足や今日まで続く原発事故  
の影響もあって顧客からの注文  
のキャンセルや工事の中止・社  
員の被災等様々な理由から各々  
の会社の事で手一杯であったと  
いうのが実情でありました。



▲復興への取り組み

そんななか、5月の定時総会  
では「歩前へ」をスローガンに  
掲げ、新たに佐藤正道会長によ  
る新体制が勢足し、理事会では  
復興へむけた取り組みについて  
も協議を開始しました。  
また広報委員会では会員に対  
しアンケート調査を実施して復  
興へ向けた会員各位の提案を募  
り、順次会報誌面で告知を始め  
たところでありました。その内容  
は極めて多彩で同友会の多士  
済々よりに改めて心強さを感じ  
ております。  
また調査の結果、会員各々の  
独自の取り組みが相づかになっ  
てきました。



▲震災後1カ月日の理事会

まし合いや情報発信を進めまし  
た。「震災後、何から手をつけれ  
ば良いのか迷方に暮れていた中  
で、同友会からのFAXを見て  
まずは社員のご安全の確保  
を第一に考え、行動できた」と  
の声もありました。  
震災後1ヶ月が経過し、ガソ  
リン不足も解消した4月11日に  
震災後初めての会合となる理事  
会が開催されました。  
お互いの近況を原発事故によ  
る今後の地域再生への意見を語  
り合いました。  
「仲間の奮闘よりを確かめ合  
えて嬉しかった」「この機会に  
雇用を広げよう」と求人を出し

た。「停電やガソリンがなくて  
も最低限の商品をお客様に届け  
られるような社内体制をとれる  
ように設備投資を決めた」と  
の発言がありました。  
地区活動のあらゆる場面で、  
お互いの経営を語りながら地域  
を担う企業家としての学び合い  
と実感が広がっている白河地区  
です。

### 田村地区

田村地区では、3、4月と地  
区会員被害状況の確認を行い5  
月の例会では、参加者の現状報  
告を行いそれぞれ被害状況や  
今必要なことや、今後の課題に  
ついて話し合いました。  
理事会においても、このよう  
な状況で私たち経営者が何をす  
べきかを話し合い、田村地区会



▲田村地区理事会

員が一人も欠けることなく企業  
活動を継続できるように、活動  
することを確認し合いました。  
今後も地区としては、会員同士  
の「会社」「従業員」「地域」を守る  
ためには何が必要で、どのよう  
に取組んでいくべきかを学べ  
る地区活動を行っていきます。  
今年度は11月9日に県中・県  
南エリア主催で経営者交流大会  
が田村で開催されます。メー  
ンスローガンを「未来へ前進、田  
村から」をテーマに「復興福  
島」のメッセージが込められ  
ています。  
このような大きな大会が田村  
地区で開催されるのは初めてで  
すが、県中・県南エリアの方々  
から大いにお知恵を拝借してご  
協力を頂いております。今回の